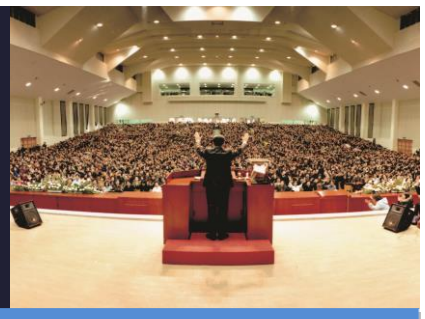
第 2019-27 号

恵みと真理のニュース



2019 年 07 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私は今年８９歳です。パーキンソン病を患っていますが、世の中で一番幸せな人です

私は豊かな家庭で生まれ親の愛をたくさん受けながら大変な問題もなくて育ちました。ところが、農業をしていた家庭で引っ越しをしてから苦しい人生が始まりました。農業もして家事もして一日も楽に休めなかったです。３０歳になって４番目の子を産みました。１２月の冬に出産した後、あちこち体が痛かったです。翌年の春に田植えを終えて、一か月ぐらい家に病気で倒れていました。病院に入院して長い時間治療を受けましたが、治らなかったです。
周りの人々は愛情豊かに受けて育った娘を苦労させて結局、病気を患わせたと言いながら婚家の家族に向かってよくない話をしました。迷信を従って偶像崇拝をする夫の姉が巫女をを呼んで祭祀を行いましたが、お金だけ無駄に使い何の効力もなかったです。そのように３年間患っていました。姑は嫁が何で痛いのに死なないのかと酷いことを言い私をいじめました。
その後、 姑は重い病気に患って亡くなりました。姑は体を動けなくなって私に謝りました。そして、 姑は夫の姉にわたしに親切にしなさいと最後の言葉を残してこの亡くなりました。ところが、 姑が亡くなってからまもなく今回は旦那が肝硬変で１年間患ってこの世を離れました。そのように私は４３歳に一人になって息子と娘４人を一人になって自分の力で育てなければならなかったです。
義理の姉から勧められて息子を連れてヨンインの田舎からスワン市で引っ越しました。当時は末子が小学校５年生で上の子が高校２年生でした。ご飯を食べるのも忘れても金を稼がなければならなかったです。食堂で働きながら日々熱心に行きました。料理が上手で大きい食堂で働いたが、工事の現場で食堂を移して働きました。その時、働いた食堂が今、恵と真理教会のスワン聖殿の建築現場でした。そこで３か月間働きました。
工事の現場食堂を辞めてから何年が過ぎたときでした。ある日から急に教会が思い出しました。今はどんな姿をしているか。とても見たかったです。教会に一度行ってみようと思って教会に行きました。
教会の中に入ったら私の心が平安になりました。教会の中を覗いてみたら長老のような方が近づいて来て私をうれしく迎えてくださいました。ちょうど礼拝を捧げているときでした。
教会に初めて来られましたが。聖書はありますか。と聞きながら案内してくださいました。聖殿に入って椅子に座る瞬間心が熱くなりました。理由もなく涙が出ました。礼拝が終わるまで涙が止まらなかったです。
その時、私は指にリューマチ関節炎で腫れていて手袋もつけられない状態でした。漢方病院に行って針を打たれたら、指からうみがだらだら流れるほどでした。
牧師の説教が終わって祈りの時間にわたしはどのように祈るかわからなくてただ“神様、私が痛いです。痛くないようにしてください。”祈りました。ところが驚く事が起こりました。礼拝が終わると手が治った感じがしました。本当に指が痛くなかったです。世にこんなことがあるのか、考えるほどうれしくて感謝でした。字も読めないながら本屋さんに行って聖書を買いました。
イエス様を自分の救い主に受け入れ、礼拝がある日は何りょりも教会に走って行きました。党会長の牧師の説教を聞けば聞くほどもっと恵まれ、感動を受けて礼拝を休めません。神様の御言葉を聞いて神様に祈って賛美するのが大好きで平日礼拝と区域礼拝も休まずに参席しました。その時から今まで私は神様の恵みなしには一日も生きられません。
 字もわからなくて熱心に聖書を持って通いました。しばらくは礼拝の時間に聖徒達をついて本をめぐって聖書の聖句を探す真似だけしました。ところが、ある日から字が目に入るようになりました。単語が私の頭の中に入力されました。奇跡のようなことが私にまた起こりました。指が痛くてご飯も作られないし、長く病院に行っても治らなかった手を神様が瞬時に治療してくださいました。そして習ったことがない字を神様の恵みで読めるようになりました。私は今もそのことを考えると私に驚いた奇跡を行った神様に感謝してまた感謝します。
私は今年、８９歳です。神様のあわれみと愛がなかったならば私はもうこの世の人ではなかったはずです。激しい人生の波を勝つことが出来なかったです。今死んでもよいです。私は今、腕が痛くてマヒになるパーキンソン病を患って１５日間病院で入院していましたが、現在はナーシングホームで住んでいます。ここに共に住んでいるおじいさん、おばあさんが私を見て学者だと言われます。時間があると聖書を開いて読んでまた熱心にノートに書き写しているからです。
始めてナーシングホームで来る日は自分がみじめで恥ずかしかったと思いました。私をいつ誰が家に連れて行くのかと思いました。ところが、一日二日過ごしてみたらここが楽だと思いました。朝昼晩のご飯が出るし一週間の一回は車椅子に乗って居間で廊下で出入りすることが出来て良いです。一緒にいるおじいさん、おばあさんに福音を伝えて聖書の話をしてあげることが出来てうれしいです。
たとえ年をとって体が不便でも私が幸せな一番大きい理由はもちろん神様の恵みで救われ天国に永遠に生きるからです。そしてこの時間も神様が私と共におられることを信じ実際に感じられるからです。今の私より幸せな人がいるだろうかと思います。“イスラエルよ、あなたはいかに幸いなことか。あなたのように主に救われた民があろうか。主はあなたを助ける盾／剣が襲うときのあなたの力。敵はあなたに屈し／あなたは彼らの背を踏みつける。”（申命記３３：２９）今、この御言葉を黙想する私の心の中に神霊な満足と平安と喜びが溢れます。従って神様に感謝し賛美を捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　これが父の御心にかなった事です

”...幼な子にあらわしてくださいました。父よ，これはまことにみこころにかなった事でした....。”（マタイによる福音書 11:25～30）

聖書に啓示された救いの福音は単純で明瞭です。”誰でもイエスキリストを信じると救いを得ます。”これが福音の核心です。”イエスキリストを信じることだけで救いを得る理由が何ですか？”このような質問に対する答えも簡単で明瞭です。”神様の思いであるからです。”と答えることができます。救いの福音を聞いてある人は信じて、ある人は拒否する理由は神様の絶対主権から始まる神様の思いを認定するか否かにかかっています。
信仰生活を良くするためにはまず、神様の絶対主権を認定して神様の思いを受け入れる過程を通過すべきです。この過程を通過するためには二つを経験しなければなりません。一、自我が破れる経験です。自分の知識と経験による主張と論理が撲殺されるのを言います。二、神様の恵みを被る経験です。聖霊様が感じられてくださり、心の目を開いてくださることで悟らせてくださることを言います。
誰でも神様の前で傲慢な自我が破られて幼な子のようになるべきです。イエス様が幼な子のようになるよう言われたのは親に徹底に頼ることと親の言葉をその通に信じる特性をおいて言われたことで、神様に徹底に頼って神様の御言葉を徹底に信じるべきだということです。そうするためには自我が破れるべきです。言い換えると、叱られなければなりません。このような体験をした聖書の人物は数多くいます。その中でヤコブがヤボクの渡しで経験した事件はとても劇的です。苦境と危機に処されて神様の前で幼な子のようになるとしたら、その危機は却って災いが転じて福になる契機になります。目の前が暗くなった状況で神様に対して自我が破られ、幼な子のようになると神霊な世界が目の前に開かれます。
聖書を判断して批評しながら自分が知恵があると扱う人は神様を知る道がありません。このような者達には神様が神霊なことを隠されるからです。イエス様が乙女の体に産れてこの世にいらっしゃったことを信じなく創世記に記録された通りの天地創造を信じられず、聖書に記録された奇跡としるしを信じない理由は彼が自ら知恵がある者だと考えるからです。神様の前で高くなったことが低くなるべきです。神様の前で自我が破られて幼な子のようになると聖書を神様の御言葉として信じるようになります。そして聖書に啓示された創造主で父でおられる神様を知り、救い主でおられるイエス様を知り、助け主聖霊様を知ります。
幼な子のように単純に神様の御言葉を信頼する人は天地万物が神様の創造によって存在するようになったことを疑いません。創造主を信じる信仰の中で全ての私物を調べてみると神様の知恵と能力と感嘆と感謝を禁じ得なくなります。神様が創造なさった万有は神様の知恵と能力と光栄を表わしています。詩編の記者は”もろもろの天は神の光栄をあらわし，大空はみ手のわざをしめす。”と歌っています。
神様の前で自我が破られて幼な子のようになると聖書に記録された啓示を通じて救い主であるイエス様を知ります。”イエスキリストは私達の罪を贖うために人の体を被られこの世にお越しになった聖子神様でおられる。”という事実を知るようになります。公義と愛が均等でおられる神様が罪人を救うために定められた思い通りにキリストイエスをこの世にお送りなさいました。十字架に釘つけられたイエス様は神様の愛と公義を全て充足するようになさいました。そうしてイエス様を信じる全ての人が罪の許しを受けて正しくなるようになさいました。罪と呪いと死亡という重い荷は人間の力では除去する道がありません。イエス様だけがこれを除去してくださいます。そうして誠で永遠な安息を得るようにしてくださいます。
神様の前で全ての理論を破って破られて低くなり幼な子のようになってください。神様の御言葉を徹底に信じて神様を完全に信頼してください。このような者に神様が御自分を現れることを喜ばれます。神様が神霊なことを明らかに表わしてくださいます。皆さんは、このような恵みと真理について”これはまことに父のみこころにかなった事です。”と声を上げて言ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

誘惑の種類

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

誘惑の一般的な意味では知識や才能、実力などを一定の手順に従って調べ評価することまたどんな機能、能力、性能などを本質的に経験してみることです。ところが信者が信仰生活で使用する「誘惑」という用語には、特別な意味が付加されています。神を不信し不従順したり、信仰生活の損傷や打撃を被る作用をすることを指し言葉です。したがって、「誘惑する」という言葉は概して信仰を害する作用をすることを意味します。
「誘惑に陥ました」という言葉は、誘惑という状況に直面したことを意味します。「誘惑に陥ました」という言葉は、誘惑によって信仰が損傷を受けた状態を意味します。ただし善意による誘惑と信仰の状態を確認してチェックすることを意味します。誘惑という言葉を信者が頻繁に聞いたり、話すことになる理由は、誘惑に直面している場合がたぶんあるからです。したがって、信者たちは、誘惑について明確かつ豊富な知識と理解を持ったなければなりません。誘惑を克服することは信仰生活の必須要件です。今日は誘惑の源に関連する誘惑の種類について説明します。

第一に、悪魔サタンによるの誘惑があります。

サタンは本性が悪いため、常に邪悪な意図で誘惑します。イエス・キリストを信じようとする人々を試みして陥るようにします。また、信者を誘惑して、信仰生活が低迷に陥ます。世俗に染めるようにします。あるいは異端に陥るようにします。サタンは、迫害という手段で信者を試みに陥るようにします。サタンは恐怖という手段で信者が誘惑に陥るようにします。サタンは誘惑という手段で信者が誘惑に陥るようにします。サタンは疑いという手段で信者が誘惑に陥るようにします。サタンは対人関係が未熟な性格が柔らかない人々のため心にけがを負う信者に近寄って誘惑に陥るようにします。サタンは教会に行こうとする人や、まだ信仰の根が深くない人々が信者や牧師の中で社会の非難を受ける行為をした事件を触れるとまっすぐ誘惑に陥るようにします。
ほとんどの人が最初にはクリスチャンを見て、信仰を持とうとするという事実を見過ごすことはできません。しかし、真のクリスチャンになるには、いつかは人を眺める目を避けて、イエス・キリストだけを待ち望む日が来なければなりません。そして、そのあがないの愛と恵みに感激して泣いて賛美し、この世で見つけることができない歓喜と喜びを味わわなければなりません。主にあって誓約された、この世 と来世にわたる祝福を、その企業を悟り幸福感を感じることです。
新しく生まれ変わされ、あがない信仰がしっかりになり、恵みに満ちるとまだ自分にも足りないことが多いということを悟り、イエス・キリストに心を集中します。そうすれば、すべての誘惑を勝ってくださいます。

福音を伝えるに障害物の役割をする人を見たときに残念な気持ちを持って祈るようになります。そのような人や出来事を見て鏡にします。他の信者が何をしているのか、私にどのようにするのかは関心がなく、イエス様が私のために何をなされたのかを知ろうとすべての関心を傾ける人には、サタンが誘惑するわけがありません。

第二に、神から来るの誘惑があります。

ヤコブの手紙 1 章 13 節に記録なさることを**「だれでも 誘惑に 会う 場合, 「この 誘惑は, 神からきたものだ 」と 言ってはならない. 神は 悪の 誘惑に 陥るようなかたではなく, また 自ら 進んで 人を 誘惑することもなさらない」と**しました。ところが、聖書の他のところには、神が誘惑されたとし、神の誘惑された事例も記録されています。次に、聖書が矛盾しているのでしょうか？そうではない。神は人を邪悪な意図で誘惑しないという意味です。だから試みにする原因が他にいるにも関わらず、神の誘惑を受けるように言わないという意味です。

神様が私たちを誘惑なさるのはなぜですか？

神がエジプトから導きしてイスラエルを荒野の道で誘惑された理由が申命記に記録されています。**「あなたの 神, 主がこの 四十年の 間, 荒野であなたを 導かれたそのすべての 道を 覺えなければならない. それはあなたを 苦しめて, あなたを 試み, あなたの 心のうちを 知り, あなたがその 命令を 守るか, どうかを 知るためであった」（申命記 8：2）**心を下げるためです。神の命令を守るか守らないかを分かるためです。人はパンだけで生きるものではなく、主の口から出るすべての言葉によって生きることを知るためです。
神の誘惑なさるもう一つの理由は、私たちの信仰で不純物を除去して全うするためのです。**「神よ, あなたはわれらを 試み, しろがねを 練るように, われらを 練られた」（詩篇 66:10）と**しました。神様は私たちの信仰を製錬するための誘惑の火を通過するようにします。神の誘惑なさる理由がまたあります。誘惑に合格させて報いを下さるためです。その代表的な例が創世記 22 章に記録されています。**「これらの 事の 後, 神は アブラハム を 試みて 彼に 言われた, 「アブラハム よ 」. 彼は 言った, 「ここにおります 」. 神は 言われた, 「あなたの 子, あなたの 愛するひとり 子 イサク を 連れて モリヤ の 地に 行き, わたしが 示す 山で 彼を 燔祭としてささげなさい 」（創世記 22：1,2）**しました。アブラハムが神の御言葉の通り行われて祭壇を築き、彼の息子、イサクを縛って祭壇の木の上に置きました。アブラハムが手を伸ばして剣を持って彼の息子を殺そうとするとき、主の天使が天から彼を呼んで言った、**「み 使が 言った, 「わらべを 手にかけてはならない. また 何も 彼にしてはならない. あなたの 子, あなたのひとり 子をさえ, わたしのために惜しまないので, あなたが 神を 恐れる 者であることをわたしは 今知った」**としました。アブラハムは、大きな誘惑を通じて、彼の驚くべき信仰を神に認められるようになりました。そして、大きな祝福を受けました。あなたが主と福音のために多きの献身を要求する場合には、神が誘惑なさることと知って、信仰と従順に誘惑へ合格して、神様に認められ、これによるの祝福を受けてください。

第三に、自分自身によるの誘惑があります。

自分の心に貪欲を抱けば、誘惑に陥ることになります。イスラエルがエリコを占領するときに守らなければならない 3 つの神の命令がありました。その中の一つがエリコの町にあるものは、個人が取ってはいけないとしたのです。ヨシュアはエリコを占領した後、アイ城を攻撃しました。アイ城の住民が一万二千人の小さな城でした。ところがアイで惨敗を受けました。ヨシュアが嘆き、神に祈ると、神様がヨシュアに敗北の原因を言われました。アカンが貪欲のために、神の命令に逆らってシナルコート一つと銀二百シェケルと五十シェケルの金をとりました。ヨシュアはアカンを罪を叱った後、処刑しました。
エバの犯罪は貪欲から来ました。**「 女がその木を 見ると, それは 食べるに 良く, 目には 美しく, 賢くなるには 好ましいと 思われたから, その 実を 取って 食べ, また 共にいた 夫にも 与えたので, 彼も 食べた」（創世記 3：6）**と記録されました。イスカリオテのユダがイエスを裏切ったことも貪欲から来ました。祭司長たちと交渉しては、銀 30 を受けて、イエスを逮捕するように渡しました。聖書には、**「あらゆる ･欲に 対してよくよく警戒しなさい. たといたくさんの 物を 持っていても, 人のいのちは, 持ち 物にはよらないのである」（ ルカによる福音書 12:15）**とし、**「だから, 地上の 肢体, すなわち, 不品行, 汚れ, 情欲, 悪欲, また 欲を 殺してしまいなさい. 欲は 偶像禮拜にほかならない」（コロサイ人への手紙 3：5）**しました。神に仕えることに時間と才能と物質をささげても、いつも不足して、もう多くの献身することを祈っている人の心には、貪欲が入る余地がない。また、高ぶる心を持てば安く誘惑に陥ることになります。
高慢すれば自分自身を過大評価します。自分は当り前にあれこれと待遇を受けなければならないと考えてしまいます。だから、自分が定めただけ礼遇してくれないと誘惑に陥るようになります。心が謙虚と常に過分だと考えをするので、なかなか誘惑に陥ません。心が謙虚と神様に認められたことを最大の名誉で考えています。したがって、人が認めてくれなくても失望したり、心堕ちしません。
使徒ペテロは記録することを**「語る 者は, 神の 御言を 語る 者にふさわしく 語り, 奉仕する 者は, 神から 賜わる 力による 者にふさわしく 奉仕すべきである. それは, すべてのことにおいて イエス ･ キリスト によって, 神があがめられるためである. 榮光と 力とが 世世限りなく, 彼にあるように, アァメン 」（ペテロの第一の手紙 4:11）**しました。どんなの手間や献身も、神の供給しているので、神が栄光を頂きましたら、もう望むことがないと思うと、誘惑に陥ることがありません。

皆さんは一生の間に誘惑に陥ることがないようにお願いします。誘惑ではなく、あなたの強固な信仰と謙虚を証明してくれることになって、神様に認められて祝福を受けることを願っております。